

民生委員が保有する相談相手とのネットワークタイプと援助成果の関連**ーネームジェネレータによる他者関係の把握ー**

○ 大妻女子大学 飛田 和樹 (9744)

齊藤 雅茂 (日本福祉大学・5854)

キーワード：民生児童委員，ネットワークタイプ，援助成果

1. 研究目的

本研究の目的は、民生委員が保有する相談相手とのネットワークタイプと活動における意欲や負担感の関連を明らかにすることである。民生委員活動における意欲や負担感に、民生委員同士、家族、専門機関などの他者関係が関連している可能性がある（飛田 2024）。民生委員がサポートを受領する相談相手との関係を詳細に測定し、その関連を実証する必要があると考える。

2. 研究の視点および方法**(1) 研究方法**

横浜市 18 区において全民生委員 4,452 人（2022 年 10 月 1 日現員数）を対象に、自記式質問紙による悉皆調査を実施した（2,959 件回収，回収率 66.5%）。

(2) 主要な変数

主要な変数は、民生委員の属性および活動状況、相談相手との関係（ネームジェネレータにより把握）、民生委員活動における援助成果・役割ストレス・継続意欲（杉原 2018）である。ネームジェネレータでは、「あなたが『民生委員活動について相談する人』を具体的に思い浮かべてください。その相談相手ひとりひとりについて、お伺いします」として最大 8 名まで想起してもらい、それぞれの相手について属性（家族、友人、民生委員、区役所、地域包括支援センター、区社会福祉協議会等）や、対面で会う頻度、連絡頻度（6 件法）等を尋ねた。援助成果はやりがいや活動を通して得たもの、役割ストレスは活動上の負担感、継続意欲は活動の継続に関する意向である。

(3) 分析方法

ケース（回答者個人）単位のデータセットを用い、民生委員の相談相手の人数や属性により大規模（非階層的）クラスタリングを実施し、6 クラスタ（ネットワークタイプ）を抽出した。民生委員が保有する相談相手とのネットワークタイプを説明変数、民生委員の活動継続意欲・援助成果・役割ストレスを目的変数としたマルチレベル分析（線形混合モデル）を実施した。統計解析には SPSS Statistics 29.0 および Amos 29 を使用した。

3. 倫理的配慮

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会の承認を得た（22-015）。

4. 研究結果

民生委員が保有する相談相手とのネットワークは、6タイプが抽出された。「豊富・民生委員中心型」(n=182(6.2%))は相談相手の人数が多く、民生委員が中心である。「豊富・バランス型」(n=264(8.9%))は相談相手の人数が多く、民生委員、専門職、家族・友人とバランスが取れている。「中程度・フォーマル型」(n=643(21.7%))は相談相手の人数は中程度で、専門職に偏っている。「中程度・インフォーマル型」(n=258(8.7%))は相談相手の人数は中程度で、家族・友人に偏っている。「少数・フォーマル型」(n=606(20.5%))は相談相手の人数が少なく、専門職に偏っている。「単一・民生委員中心型」(n=1,006(34.0%))は相談相手が1人程度で、民生委員が中心である。マルチレベル分析(線形混合モデル)により民生委員の所属地区を考慮したうえで、6つのネットワークタイプと意欲や負担感の関連を分析した。最も相談相手との関係が少ない「単一・民生委員型」を参照カテゴリとして、継続意欲は「中程度・フォーマル型」が高い傾向にあった(B=0.22)。援助成果は、参照カテゴリ以外の5つのタイプすべてが高い傾向にあった(B=1.09~2.58)。役割ストレスは、参照カテゴリに対して4つのタイプが高い傾向にあった(B=1.26~1.91)。

【表】民生委員が保有する相談相手とのネットワークタイプと援助成果・役割ストレス・継続意欲の関連

	n (%)	援助成果			役割ストレス			継続意欲		
		B	95% CI	P	B	95% CI	P	B	95% CI	P
豊富・バランス型	264(8.9)	2.33	1.45	3.21 ***	0.85	-0.20	1.90	0.17	-0.09	0.44
豊富・民生委員中心型	182(6.2)	2.58	1.57	3.59 ***	1.52	0.32	2.72 *	0.29	-0.02	0.59
中程度・フォーマル型	643(21.7)	2.02	1.36	2.67 ***	1.56	0.79	2.34 ***	0.22	0.03	0.42 *
中程度・インフォーマル型	258(8.7)	1.57	0.69	2.45 ***	1.91	0.87	2.94 ***	0.07	-0.19	0.34
少数・フォーマル型	606(20.5)	1.09	0.45	1.74 ***	1.26	0.50	2.02 ***	0.06	-0.13	0.25
単一・民生委員型	1,006(34.0)	ref.			ref.			ref.		

マルチレベル分析で所属区を考慮し、基本属性や活動状況等を統制変数として同時投入した。* $\leq .05$, ** $\leq .01$, *** $\leq .001$

5. 考察

民生委員は、相談相手が単一ないし少数で、ネットワークが乏しい者が半数以上であった。民生委員活動において適切に相談相手を確保できていない可能性がある。6つのネットワークタイプと援助成果等に関する分析から、専門職だけではなく同僚民生委員とのネットワークキングを支援することで、援助成果を高められることが示唆された。一方で、ネットワークの充実によって増加する可能性のある役割ストレスを低減するサポートの提供も求められることが推察された。

【引用文献】

杉原(2018)『日本公衆衛生雑誌』65(5),233-242。飛田(2024)『福祉社会開発研究』(19),61-69。

大妻女子大学戦略的個人研究費(課題番号 N2211)の助成を受け、横浜市民生委員児童委員協議会および(福)横浜市社会福祉協議会から調査費用を拠出いただいた。本研究にあたり開示すべき COI はない。